

教育研究の環境が整った
新校舎での生活
-東北女子大学-



心静かに日本の作法を学ぶ。茶道を通して他大学とも交流



音楽室(5F)

5階に器楽室・声楽室・音楽ホール・ピアノ練習室など音楽関係を集約。練習の合間に眺める岩木山が素晴らしい



コンピュータ実習室(4F)

授業・卒業研究・就職検索にフル活用



多目的ホール(2F)

コンサートや講演会など多目的に使用される。400名収容可能



新校舎移築に伴い、教育研究・生活・環境改善の面で、さらなる飛躍的改善が図られる。最新の管理システムを導入された図書館、給食運営実習室のHACCP（ハザード分析）設備、防音設備が整った音楽室（ピアノ・ポックル等）やエアカンが完備されており、研究活動の充実に役立っています。新たな環境で着々と大学生活が展開されています。



CAD実習室(2F)

プロッタから型紙が描き出されると驚きの声...



学生ホール(1F)

テレビを観たり、談笑したり、友人とくつろぐ学生たち



図書館(1F)

読書に勉強に、学生の図書館利用が急増。知的探求心が刺激される大学中核の空間



給食運営実習室(1F)

週1回、給食の試食を学生へ提供。アンケートの結果が次へと活かされる



アリーナ(1F)

暖房のある体育館で冬期ものびのび運動!

にわうるし

柴田学園報
第2号
(年2回発行)

発行 学校法人柴田学園 〒036-8503 青森県弘前市上瓦ヶ町25番地 ☎0172-32-6151



学校法人 柴田学園
東北女子大学新校舎落成記念式典

平成22年10月16日、弘前市清原の新校舎において教職員・学生600人が出席し、落成記念式典が行われる。式辞を述べる今村吉彦理事長。

教育研究の向上を誓って
東北女子大学新校舎完成祝う
家政学部/家政学科/児童学科

落成にあたって



学校法人 柴田学園
理事長 今村吉彦

学園は、大正12年創立者柴田やす先生によって開校された弘前和洋裁縫女学校を礎とし、建学の精神に基づき87年の歴史の中で、女子教育の振興に努めてまいりました。現在では7つの教育施設を擁するに至っておりますが、これもひとえに多くの方々のご厚意やご尽力に支えられたものであること、感謝いたします。

さらなる飛躍を期して



東北女子大学
学長 小澤 薫

東北女子大学設置後41年、大学を取り巻く社会状況は大きく変化しておりますが、本学は人格教育と教員及び栄養士養成を中心に大きな成果を上げ、全国女子大学トップの就職率を維持しております。しかしながら、四年制大学への進学率が50%に達する現在では、大学に対する

期待や要望も非常に多様化しており、本学においても教育環境の整備充実への対応が急がれておりました。幸いにして、学園の理解と決断により、本日新校舎落成の日を迎えることができましたこと、心から感謝申し上げます。

新校舎からは、遮るものもなく、岩木山の秀麗な姿を望むことができます。明治言論界の巨星、陳瑞南が「名山の下からは有為な人物が生まれる」と述べているように、学生の皆さんがこの充実された施設・設備を十分活用して自分の夢を実現させ、社会の有為な女性人材に成長することを願っております。

そして、今また東北女子大学の新たな道に思い返します。と、感慨深いものがあります。工事前は雑木林と湿地であったこの場所は、雑木のつがいが棲み、準用河川の潤沢も流れており、その保護と整地には熱慮を要しました。

工事関係者の皆様、柴田前理事長先生、キャンパスの引越しをされた教職員・学生の皆さんに心から感謝いたしながら、今後も地域と共に発展できる学園をめざして研鑽を積んでまいりたいと思っております。

東北女子大学

学都ひろさを活性化

東北女子大学・同短大を含む弘前市内の六大学が連携する「学都ひろさき」を高等教育機関コンソーシアムの活動として、市長と学生との懇談会が、11月8日に中土手町まちなか情報センターにおいて、開かれました。



この取り組みは、各大学の垣根をこえて、学生が主体となってさまざまな企画を考え、「学都ひろさき」を魅力あふれる街に活性化していくこととするものです。会では、将来的に「合同文化祭」や、弘前中心街でのイベントを企画したい等、学生ならではの発想で弘前市を盛り上げていく多くの提案が出されました。女子大からは家政学科4年八谷綾乃さん、児童学科4年小田桐山佳さん、短大からも生活科2年尾野舞美さん、保育科2年山崎美穂さんが参加。卒業も近いので、今後は企画や活動方針等を後輩に引き継ぎ、これからも弘前市の活性化に協力していきたい、とそれぞれ抱負を述べました。



弘前市の成人式

誓いのことば

1月9日、弘前市市民会館で行われた二十歳の祭典「で、家政学科2年兼平清さんが新成人を代表して誓いの言葉を述べました。兼平さんは卒業士と家庭科教員更には栄養教諭の免許取得を目指し日々勉強に励んでいますが、「食のありがたさや、大切さをより多くの人に伝え、自分が今できる一杯のことに努力できる社会人になりたい」と力強く決意を述べていました。

四大学合同茶会が催される

12月19日(日)本学5階の礼法室において、東北女子短大、弘前大学、弘前学院大学との合同お茶会が催されました。参加者は第一茶席で亭主に、第二茶席で客側となり、日頃の積習の成果を十分発揮したお茶前を披露していました。



東北女子短期大学

被服科の京都研修旅行

9月16日から19日まで被服科2年生が京都研修旅行に出かけました。川島織物中央技術センターでは製織製作現場を見学。織成館では西陣織の歴史にふれ、また安達くみひも館では、くみひも作りを体験しました。美術館や清水寺にも足を運び、日本の伝統と職人技の素晴らしさに大いに刺激を受けた研修となりました。



真剣な表情で細み紐作りを体験

秀芝寮でクリスマス会が開かれる



1年生がサンタに扮してダンスを披露

恒例となっている秀芝寮のクリスマス会が、冬休みも間近となった12月17日に寮の食堂で行われました。高校生のオーブンシングゲームで始まり、部屋ごとのゲーム・ビンゴと続いた会は、笑いとお歌の絶えない楽しいひと時となりました。寮生活にすっかり馴染んだ学生の様子に、出席した先生方もリラックスしながらゲームに参加していました。

専門学校

東北栄養専門学校

津軽の味を学びたい

1月22日、2年生を対象に郷土料理伝承会が開かれました。

本校では、地元の老人福祉施設や病院などに栄養士として就職する卒業生が多いことから、本格的な津軽の郷土料理の作り方を学ぼうと、2年前から行っています。今回も黒石地区広域生活改善グループ連絡協議会から、10名の講師を迎え「赤飯くんじょなかせ・干しタラの和え物・がっばら餅」の4品を調理し、「鮎の飯ずし」の作り方のデモン



ストラクションも見せて頂きました。学生たちは真剣に調理のポイントを聞き、郷土料理に挑戦しておいしく味わっていました。

東北コンピュータ専門学校

日頃の研究成果を発表

1月25日に「卒業研究発表会」が開かれました。今年度は、赤外線通信を利用した家電の遠隔操作を実現しようとした研究や、スマートフォンに代表されるアンドロイド組込機器の応用発展形として、Bluetooth無線通信プログラムの活用可能性を試みた研究など、ソフトのみならずハードウェアの活用をテーマにした研究が特に注目され、Webやネットワークなど高度な技術を使用した作品

発表に、聴講した父母や企業関係者から感嘆の声も上がりました。学校で培った技術や技能を社会にどう貢献していくかがそれぞれの今後の課題です。



学園ニュース



柴田女子高等学校

青森県高校総体のスロীগアンに決定

第64回平成23年度青森県高校総合体育大会のスロীগアン最優秀賞に、2年3上芽美さんの「北の空」我らの夏が、今始まる」が選ばれ、採用されました。

バスケットボール部

バスケットボール部は、平成22年9月12日に全国高校選抜バスケットボール県予選(ウインターカップ)決勝で三沢商業高校と対戦し、69対48で下して優勝。2年ぶり8度目の全国大会出場を決めました。

12月23日に行われた全国大会の1回戦では埼玉栄高校のスピードについていけず、41対72で敗れ、8度目の



ウインターカップ県予選で2年ぶり8度目の優勝

全国文芸コンクール

俳句部門優良賞 「まだこいへ 祖母の声 消す 蝉時雨」で優良賞を受賞した2年石岡美穂さんは、読売新聞の取材に、「夏



受賞を喜ぶ石岡さん

挑戦でも一回戦の壁を破ることができませんでした。来年に期待したいと思えます。

柴田幼稚園

たくさんの拍手に 笑顔いっぱい

音楽発表会も回を重ねること25回。11月11日にホールいっぱいのお客様を迎えて各年齢、教員、父母がそれぞれ演奏をしました。ネットの身振りがかわいいうた。ラ・年少組の歌、リズムがぴったり合った年中組の合奏、さすがキキリアを感じさせた年長組「メリーポピンズ」のメリハリある演奏。大勢の前でも動じない、本番に強い子ども達は、たくさんの拍手に「やったア」と達成感を味わい、次への自信を深めたようです。



上手く出来るかな

今年も講師に中原一先生をお迎えして年長組の焼き物教室を行いました。土で形を作り乾燥させ、



色付けをして焼くという、一か月かかる製作ですが子どもも好きで楽しく教えて下さる先生と一緒に「私はカップ。ジュースを入れて飲むの!」「僕はクッキーを入れるお皿」など、思いおもいに取り組んでいました。色とりどりの完成品は2月12日の作品展で披露され、みんなその出来映えに驚いていました。



「なげたらあかん」いつ頃誰が貼ったのか教室に「なげたらあかん」と貼られています。諦めるな、のこの言葉の後に、地道な毎日の積み重ねの大切さを諭す文が続いています。簿記や医事コンピュータなど数多くの検定試験に臨む生徒たちにびつたりの言葉です。その甲斐あって今年も入学半年で日商簿記二級に合格するなど、努力が実を結んでいます。卒業にあたり、この一年の歩みが「なげなかつた日